

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

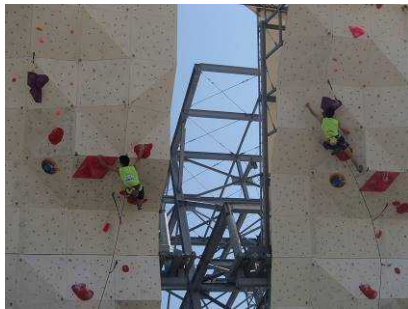
大町高等学校

国体長野、成年男子完全優勝観戦記

長崎県大村市で行われた第69回国民体育大会山岳競技に、長山協を代表して唐木会長、松田国体委員長とともに応援に出かけた。松本から片道およそ1100km、15日の宵に出発し20日早朝まで、2夜行、3泊4日での日程であった。

長野県は予選を勝ち抜いた少年男子と成年男子が出場した。少年男子は蟻ヶ崎高校の西脇匠一、大町北高校の伊藤和輝、成年男子は笠原大輔、中嶋徹ペアがチーム長野として、頂点目指して最高のパフォーマンスを見せてくれた。会場は大村市の大村高校に特設のリード壁と大村城南高校に設置されたボルダ一壁。小生自身本国体に顔を出すのは、2009年の新潟国体以来5年ぶり。16日の早朝に車が長崎県内にはいった瞬間に感じる気分は、やはり国体のそれだった。ひとところに比べればだいぶ質素にはなったものの、同じ全国大会とはいえ、IHとはまた違った国体ならではの地元の歓迎ぶりは、相変わらずだ。16日、監督会議には、高体連で馴染みの先生方も監督として参加されており、クライミングが高校の山岳部の活動の中でも次第に大きな位置を占めてきていることを感じ、長野県内とはだいぶ様子が違うことを肌で感じた。

17日、18日はそれぞれの種別の予選が行われ、国道を挟んで対面にある会場を行ったり来たりしながら応援をした。結果、健闘したものの少年男子は惜しいところで決勝進出を逃してしまった。一方で、成年男子は全く危なげなく、初日のリード、2日目のボルダリングともに、文句なしダントツの1位で予選を突破した。笠原、中嶋のコンビになって3年目、リードはこれまで2連覇、ボルダ一は2年連続2位、満を持して今年こそは2種目制覇という夢に向けて、死角は見当たらない好スタートだった。



2種目制覇に向けて、19日の決勝は、リードから始まった。予選からはだいぶ難度が増した壁にどの県の選手も苦戦する中、最終試技者として登場した長野県の二人。スタートの合図が待ち遠しいとばかりにすぐに壁に取り付いた中嶋、対照的に作戦を入念に立てておもむろに登り始める笠原。大学での実習のため数か月壁に取り付いていないという中嶋だが、多くの選手が登り切れなかったルーフを全く危なげなく登る。しかし、4/5あまり登ったところでフォール。一方の笠原は、途中のレストポイントでは、観客にアピールする余裕を見せながら登りきった。残念ながら完登直前でちょっとしたアクシデントがあり、完登こそならなかったものの、解説の東秀磯氏もお墨付きの文句なしの見事なパフォーマンス。圧倒的な3連覇だった。

初優勝に死角なし。ボルダリングも圧勝だった。県体協からの応援団も最前列で見守る中、第1ラウンドは長野の前に登った14選手の中で、第1課題の完登は5人のみ、第2課題はなんと誰も登れていなかった。1課題を笠原が3撃で落とすと、中嶋は2課題を2撃で完登。中嶋は1課題も危なげなく登り切り、2位に大差をつけて第2ラウンドに向かった。さらに難しくなった第3課題は2人、第4課題は完登はおろか、第2ボーナスをとった選手も3名という難課題。まさに長野の二人のためにここまで難しくした



たというような課題に、挑戦する二人。静的な課題と動的な課題と、対照的な2つの課題だったが、すべての選手がてこずっていた第3課題に笠原・中嶋ともに2撃で完登。残る第4課題も登れなかったもののボーナスをきっちり獲得。タイムアップ寸前に観客の大声援を背に笠原が最後のパフォーマンス。登れはしなかったが、大歓声の中、圧倒的な存在感で文句なしの優勝であった。2種目優勝の快挙を成し遂げた中嶋岳志

監督のこれまでのご尽力はまさに筆舌に尽くしがたい。そして、選手を支えてくださったトレーナー諸氏とまさにチーム長野一体となつての勝利。長山協理事長としてこれらすべてに心より感謝申し上げたい。そして、観戦していた少年男子選手諸君の心にも深く刻まれたことと思う。ぜひ後に続いてほしい。

なお、長野県山岳協会では下記の日程で祝賀会を計画しております。全国優勝選手の快挙をたたえ、ゆっくり歓談できるような設定にします。どなたでも参加できますので、ご希望の方は大西までご連絡ください。

期日：12月6日(土) 19:00～ 会場：松本東急イン 会費：6500円

雲南の山と自然・・・岳都松本山岳フォーラム関連イベント

山の日制定を記念して、岳都松本山岳フォーラムが開催されるが、松本市美術館で行われる関連イベントをご紹介します。

「山の日」制定を記念し、中国・雲南省の自然と文化の多様性をテーマに、全国「山の日」協議会副会長で、京都大学霊長類研究所の松沢哲郎氏が監修を務める写真展が開催される。大人はもちろん、高校生にも面白い企画だと思います。近隣の高校の先生方、ぜひ生徒にお薦めください。詳細は下記ならびに添付したPDFファイルを参照ください。

会期：11月26日(水)～30日(日) 9:00～17:00 (初日15:00～/最終日は16時まで)

会場：松本市美術館 2F多目的ホール 観覧料：無料(申し込み不要)

特別講演会

11月26日 17:00～18:00 「キンシコウ・孫悟空のモデルになった猿」

松澤哲郎氏(京都大学霊長類研究所教授)

11月27日 17:00～18:00 「アジア・アフリカの里山と人々の暮らし」

山越言氏(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科准教授/松本深志高校卒)

11月29日 11:00～12:00 「雲南の最高峰・梅里雪山 その自然と聖地の魅力」

小林尚礼氏(写真家/カワカブ会代表)